

## 【 2021年度 教育連携委員会 事業報告】(案)

## 教育連携委員会

委員長校 : 兵庫県立大学

副委員長校: 大手前大学、兵庫医療大学

委員校: 芦屋大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西福祉大学、関西学院大学、聖和短期大学、甲南大学、神戸大学、神戸医療福祉大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸芸術工科大学、神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸親和女子大学、神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、姫路獨協大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部 計25校

## &lt;目的&gt;

県下大学の教育事業についての相互連携や教育資源活用に関する相乗効果を図る。  
教育活動を通じて、多様な学生の交流を促進し、学修動機と学修経験の強化、教育効果の向上を目指す。  
学生が所属大学の垣根を越えた学びに対し、単位認定の道を開くことで、コンソーシアム事業への参画の動機づけや、地域貢献活動の実現も期待する。

## &lt;内容&gt;

## 1. 単位互換事業

集中講義及び特色のある科目による単位互換制度の実施

## 2. 多様な学修機会の提供事業

- (1) ICTを活用した学修機会の提供に向けた試行実施及び本格実施の検討
- (2) 医療・看護系学生向けプログラムの実施

## &lt;期待される効果&gt;

## 1. 単位互換事業

- (1) 多様な学生との交流による教育効果の向上
- (2) コンソーシアム事業(国際交流、地域連携、社会連携等)に対する学生への意識づけの促進

## 2. 多様な学修機会の提供事業

- (1) 学修に係る地理的・時間的課題の解消による学生の学びの場の拡大
- (2) 異なる分野の医療・看護系学生の交流促進による広い視野を持った人材の育成

実施プログラム名称		予算額
①	教育活動を通じた多様な学生の交流促進 1. 単位互換事業: 500,000円 2. 多様な学修機会の提供事業: 100,000円	600,000円

【2021年度 教育連携委員会 事業報告①】

課題	高等教育機会の偏在への対応			
達成目標	開講科目数: 10 講座(2021(令和3)年度)			
課題を解決する取組概要	県内の大学に通う学生に、幅広い科目の履修や学びの機会を提供するため、兵庫県の地域特性や各大学の特徴を活かした授業及び集中講義を中心とした単位互換事業を実施する。			
活動指標	ICTを活用したコンテンツ及び医療・看護系公開講座等の提供			
内容 (結果)	<p>1 単位互換事業</p> <p>(1)2021年度単位互換事業            昨年同様、新型コロナウイルス感染症の影響下での事業実施となったが、授業形態の多様化により、昨年度のような募集中止の措置を取ることなくほぼ予定通り実施できただけでなく、例年よりも大幅に履修者を増やす結果となった。            (直近3か年の推移は以下のとおり)            2021年度 11校、開放科目数43科目、履修者29名(8大学)※            2020年度 15校、開放科目数41科目、履修者 8名(3大学)            2019年度 14校、開放科目数45科目、履修者16名(6大学)            ※履修者29名の内訳: 対面8、対面・オンライン併用1、非対面20(オンデマンド3、オンライン17)</p> <p>(2)2022年度に向けた取組</p> <p>①単位互換協定書締結大学の拡大            協定未締結校に対して依頼し、2022年度から芸術文化観光専門職大学が参画することとなった。            [参考:2021年度 協定書締結大学: 33校(29大学、5短期大学・部)]</p> <p>②広報ツールの制作            学生への周知拡大を図るため、神戸芸術工科大学学生が企画・デザインしたポスターとチラシを制作し、各校へ印刷物と原稿データを配布した。</p> <p>③開放科目の選定            14校(12大学2短期大学)が76科目を提供することとなった。            ・科目数は、大幅に増加し過去5番目に多い結果となった。            (2014年度:118科目、2013年度:115科目、2012年度:96科目、2011年度:85科目)            ・授業形態は、非対面形式を含む科目が6科目となっており、対面授業中心の構成となっている。</p> <p>2 多様な学修機会の提供事業</p> <p>(1)ICTを活用したコンテンツの検討            昨年度に引き続き、「大学e-learning協議会共通基盤教育システム」試行運用を教育連携委員会委員校8校を対象に実施した。            また、「大学e-learning協議会共通基盤教育システム」への各校の理解促進を図るため、第1回教育連携委員会(7/1)に引き続き勉強会を開催した。            勉強会では、先行取組事例として、兵庫医療大学から自大学での取組状況を紹介いただくとともに、大学e-learning協議会からシステムに関する説明を受けた。</p> <p>(2)医療・看護系学生向けプログラム            昨年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響下での事業実施となったが、2大学が4講座をオンライン開催した。</p>			
新しい試み等 (事業計画に記載)	単位互換事業における非対面授業科目の開講			
事業収支	収入	支出	収支	備考
	600,000円	679,151円	-79,151円	
	【対到達目標】	3	【対継続性】	2
自己評価	<p>1 単位互換事業            昨年度に各大学での遠隔授業対応が急速に進んだことを受けた包括協定書の見直し(遠隔授業科目を単位互換科目として位置づけることの明確化)により、今年度の履修者29名中、従来型の対面授業履修者8名に対し非対面授業が20名となった。これまで距離的・時間的制約により履修者数が伸びてこなかった単位互換事業であるが、教育のICT化により新たな段階に突入しつつあり、この流れを逃さず、今後の学生へ多様な学びの機会の提供に繋げていきたい。            なお、2022年度の開放科目が大幅に増加するも非対面形式科目が全体の1割程度であることから、単純な科目増が履修者増につながるのか、時間的・距離的制約のない授業形態での科目でなければ履修者増には繋がらないのかについてを確認する試金石になると考えている。</p> <p>2 多様な学修機会の提供事業            「大学e-learning協議会共通基盤教育システム」正式利用時に必要となる会費は各大学負担となることから、来年度からの本格運用は試行実施校の結果を踏まえて各大学の判断にゆだねることとなる。            また、医療・看護系学生向けプログラムについては、過密な教育課程が編成されていることから、学生の参加が難しいという根本的な課題を抱えている。</p> <p>以上のことから、単位互換事業は継続しても良いが、多様な学修機会の提供事業は中止すべきと判断し、対継続性を2とした。</p>			
■自己評価基準 (対到達目標)	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った		■自己評価基準 (対継続性)	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき
理事会からの改善提案 (次年度事業計画に反映)	<p>・2021年度の単位互換履修学生数は29名で、新型コロナ禍前の2019年度16名から増えた。また、29名中20名が非対面(オンライン17名            オンデマンド3名)科目を履修しており、単位互換事業におけるICT教育の有効性が見られる結果となった。</p> <p>・ICT教育推進という観点からも、単位互換事業を継続し、積極的かつ多角的に学生に多様な学修機会を提供して頂きたい。</p>			